

2018年度入学試験問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きを使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I つぎの文章（A～C）はインドの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。（32点）

A 南アジアは現在のインドを中心とする地域で、ヒマラヤ山脈以南のインド亜大陸とインド洋の島々からなる。大部分はモンスーン気候帯に属しており、インダス川流域は小麦、ガンジス川流域では米を主要穀物とし、古代から穀倉地域をなすもっとも人口の稠密する地域である。人々は、大きくインド・ヨーロッパ語系に属するアーリヤ人と、それにさきだってインドに進出していた（ 1 ）人にわかれる。

南アジアでもっとも古い文明は、前2600年ごろから前1900年ごろまでつづいたインダス文明である。前2500年ごろ、インダス川流域を中心にハラッパーやモヘンジョ=ダロ（モエンジョ=ダロ）などの都市文明が栄えた。これらの都市では、^(a)城塞内に会議場や宗教目的の大沐浴場、穀物倉庫などの公共施設があり、市街地には道路や下水道が計画的にととのえられていた。しかし、宮殿や陵墓は発見されず、強大な支配者のいない社会と思われる。遺跡からは彩文土器や青銅器などが発見され、出土した印章には現在も未解読のインダス文字がしるされている。前2000年ごろ以降都市は秩序を失い、前1800年ごろには、インダス川の度重なる洪水あるいは乾燥化・砂漠化などにより、中央アジアで牧畜生活をおくっていたアーリヤ人は、カイバル峠をこえて（ 2 ）地方に来住した。そして、司祭階層のバラモンによって神々への賛歌が集められ、インド最古の聖典とされる『（ 3 ）』が編纂された。

B 前7世紀ごろ、ガンジス川流域は稲作農業や手工業が発展し、商業活動が活発になり、城壁のある都市を持つ国家が数多くつくられた。前6世紀ごろにはマガダ国や（ 4 ）国が勢力をのばし、それにともない武士階層のクシャトリヤや商業に従事するヴァイシャの支持を背景に新しい宗教がうまれた。なかでもガウタマ=シッダールタは仏教、ヴァルダマーナはジャイナ教を開いた。前4世紀になると、マケドニアの^(b)（ 5 ）大王がアケメネス朝を滅ぼし、さらに西北インドにまで進出した。前4世紀の終わりには、マガダ国の武将 Chandragupta が都（ 6 ）を奪ってマウリヤ朝をたてた。第3代アショーカ王の時代に、マウリヤ朝は最盛期に達し、^(c)王は征服活動の際に多くの犠牲者を出したことを悔い、^(d)しだいに仏教に帰

依するようになった。しかし、アショーカ王の死後、非仏教勢力の反発もあり、マウリヤ朝は衰退した。その後、西北インドにはバクトリアのギリシア人が進入し、ヘレニズム文化をもたらした。つづいてイラン系遊牧民が西北インドに進出し、紀元後1世紀になると今度はバクトリア地方からクシャーナ人がインダス川流域にはいってクシャーナ朝をたてた。この時代には、出家者の解脱を中心とする仏教教団に対抗し、在家者をふくむ万人の救済を目的とする大乘仏教がおこった。大乘仏教では衆生救済のために修行にはげむ者を広く菩薩として信仰した。クシャーナ朝の保護をうけた大乘仏教は、ガンダーラを中心とする仏教美術とともに各地に伝えられ、中央アジアから中国・日本にまで影響を与えた。こうした大乘仏教の教理は、2世紀ごろ（7）によって体系化され、カニシカ王^(e)は大乘仏教を厚く保護した。クシャーナ朝はササン朝ペルシアの圧迫により3世紀に衰亡した。

- C 4世紀はじめ、マガダ地方でチャンドラグプタ1世がグプタ朝^(f)をたてた。グプタ朝は、チャンドラグプタ2世のときに最盛期を迎え、北インドの統一に成功した。バラモン教からヒンドゥー教への展開がすすんだころ、バラモンをおもな担い手とする諸学問も発展した。グプタ朝は、中央アジアの遊牧民（8）の進出により西方との交易が打撃をうけたことや、地方勢力の自立が強まったことにより衰退し、6世紀半ばに滅亡した。7世紀前半にハルシャ=ヴァルダナがナウジを都として、一時、北インドの大部分を統一したが、彼の死後帝国は瓦解した。以後、デリーにイスラーム政権が樹立されるまでの約600年間のインドでは、小王国の群雄割拠がつづいた。その王にはクシャトリア身分の王の子を称する者が多かったので、この時代は（9）時代とよばれる。しかし、実際には、これらの王国の多くは、外来の民族や山地の部民族の出身者が樹立したものである。

グプタ朝時代以降、ヴァルナ制度の枠のなかで、職業の世襲化・固定化がすすみ、ヒンドゥー教とむすびついたカースト制度が確立した。なお、「カースト」は、ポルトガル語の「カスタ」に由来する語である。一方、仏教は都市の商工業者の没落によって経済的支援を失い、やがてヒンドゥー教^(g)のなかに吸収されていった。こうして、政治的にも文化的にも独自性が強い諸地域からなり、ヒンドゥー教とカースト制度を共通の特徴とするインド社会の原型が形成された。

設問1 空欄(1～9)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(5)(7)には人名が入る。

設問2 下線部(a)について。グジャラート地方で発掘された、インダス文明の大規模な都市遺跡は何か。その名称を答えなさい。

設問3 下線部(b)について。ジャイナ教に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 禁欲的な苦行の実践と不殺生を強調した。

い. シヴァやヴィシュヌといった主神のもとにまとめられた多神教である。

う. 保守的なバラモンの支配に不満を持つ商人層に信者が広がった。

設問4 下線部(c)について。マウリヤ朝が巨大な帝国を形成した、その領域として正しい組み合わせはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

① 東はガンジス川上流域、南はデカン高原

② 東はガンジス川中流域、北はチベット高原

③ 東はガンジス川中流域、南はデカン高原

④ 東はガンジス川下流域、北はチベット高原

⑤ 東はガンジス川下流域、南はデカン高原

設問5 下線部(d)について。アショーカ王の時代にかかげられた、人間として守るべき倫理規範は何というか。その名称を答えなさい。

設問6 下線部(e)について。この時代において、インドに大量の金をもたらした貿易の相手国はどこか。その名前を答えなさい。

設問7 下線部(f)について。グプタ朝で公用語として使われていた言語は何か。

1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① アヴェスター語
- ② ケチュア語
- ③ サンスクリット語
- ④ ソグド語
- ⑤ トカラ語

設問8 下線部(g)について。7世紀ごろ、仏教やジャイナ教に対する攻撃をおこな
い、ヒンドゥー教の神々への絶対的帰依を説いた宗教運動が広がった。その
運動の名称を答えなさい。

II つぎの文章は、運河をめぐる歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

洋の東西を問わず、経済活動が大規模になり、広範囲の消費者を相手にするようになると、商品や原材料を迅速に、しかも大量に運ぶ必要が生じる。そこで開発されたものの1つが運河である。運河の開発が経済はもちろん、政治や軍事にまで大きな影響を及ぼしたのである。

古くから運河は世界各地で作られてきた。たとえば中国では、隋代の大運河建設が有名である。楊堅(文帝)は(1)という王朝を倒してこの地域の実権を握り、国号を隋として、新たな都である(2)を建設した。楊堅は都において増加しつつあった人々を支えるため、当時すでに穀倉地帯であった地方と都とを運河で結ぶ構想を持ち、楊堅の子煬帝との2代にわたることになる運河の建設を始めた。こうしてできた運河は史上初の南北を貫く交通・流通の幹線となり、経済活動の範囲が拡大した。

その一方で、この運河の工事をはじめとする数多くの土木事業、さらには度重なる外征に際して多くの民衆が酷使されたため、民衆は疲弊した。それゆえ、(3)への遠征失敗を契機としておこった農民反乱により、隋は滅亡することとなった。

その後、唐の時代を経て再び南北が別々の王朝を立てて対立したため、自ずと南北の経済圏は分裂することになった。この状態を再び統一したのが元である。元のフビライ=ハンは穀倉地帯と都とを直接結ぶ南北縦断の大運河を完成させた。その結果、隋代に建設されたものまで含めると(4)から都までの物資輸送が格段に発展することとなった。この時期にできた大運河は現在でも流通の大動脈として利用されており、2014年には世界遺産に登録されている。

近代になると、運河の働きはより重要性を増してくる。産業革命を経験したイギリスは18世紀にブリッジウォーター運河を完成させ、それを皮切りに、ヨーロッパ地域で「運河の時代」が到来した。イギリスは運河を中心とする交通の掌握により、その勢力を拡張させることとなる。

19世紀前半から、イギリスは海外の利権を積極的に狙ったが、そのなかで特に交通の要地として目をつけたのがスエズ地域である。この地域では、再三にわたって運

河建設が検討され、実際にいくつかは開通したものの、社会の混乱などで管理がゆき届かないと土砂で埋まってしまうということを繰り返していた。たとえば17世紀ドイツの哲学者・数学者であり、単子論を説いたことでも有名な（5）は、ルイ14世に対して開削を提言したことがあり、さらにナポレオンもこれを検討したといわれるが、いずれも実現しなかった。

この地域は19世紀はじめにエジプト総督に任命されたムハンマド＝アリー^(c)によって統一され、新たな王朝が建設された。その一環として、この運河はフランスの技師（6）の指導を仰ぎつつ、長い時間をかけて開削された。運河建設には出資会社が設立され、総督のほか外国人投資家も多く出資したが、これらの投資は最終的に総督の対外債務となった。こうした債務に苦しんだ総督は、1875年、出資会社株をイギリスに売却した。イギリスはこれによって流通を握ることとなり、帝国主義^(d)への道を歩み始めたのである。そして、この運河をエジプトが取り戻す^(e)のは、第2次世界大戦後かなり経たのちのことであった。^(f)

イギリスからの移民が多かったアメリカにおいても、18世紀までは一面が荒野であった状態から、19世紀において目覚ましい発展を遂げた。

ハドソン川とエリー湖とをつなぐ運河が開通する前のアメリカは、自給自足的な小農経営を中心とする農業国であった。つまり、東北部こそ工業が比較的発達してはいたが、農業は生産力に欠けていた。その一方で中西部は穀倉地帯となる可能性を秘めており、南部は奴隷労働による大規模農業地帯に発展しつつあった。

この運河の開通により、西部からの農作物を東部に安く輸送することが可能になり、それは（7）やその周辺都市の発展を促した。東部から機械や工業製品を中西部へと安価に送ることが可能になったことで、西部の工業化が進んだ。これにより、アメリカの産業は分業化し、地域によって特殊化していった。この分業化・特殊化が、南北戦争以降のアメリカ資本主義発展の前提条件となったのである。^(g)

さらに、国内だけでなく、農産物はさらに大西洋を経て海外の市場にまで輸出することが可能となり、対外貿易額が飛躍的に増大した。また、交通の発達によって西方への移民が進み、国内の都市化をも促したといわれている。

しかし、このような「運河の時代」もやがて終焉を迎えることになる。1825年に蒸気機関車が（8）によって実用化されたのを皮切りに、19世紀後半には各国

で鉄道網が構築された。こうした「交通革命」ともいわれる運輸手段の飛躍的な発展^(h)によって、運河の地位は相対的に下がることとなった。

設問1 空欄(1～8)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。ただし、(2)(4)(7)には都市名が、(5)(6)(8)には人名が入る。

設問2 下線部(a)について。この工事を建言し、新たな暦を作ったことでも知られる官僚は誰か。その名前を答えなさい。

設問3 下線部(b)について。イギリスにおける産業革命に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 綿工業が勃興したマンチェスターは、以前は奴隷貿易で栄えていた。

い. 産業革命の結果、中世のギルド組織が復興した。

う. 大西洋三角貿易によって、産業革命の前提となる資本の蓄積が促された。

設問4 下線部(c)について。この時期におけるムハンマド=アリー⁽ⁱ⁾の政策はどのようなものであったか。軍事面を中心に35字以内で説明しなさい。

設問5 下線部(d)について。この買収にあたって財政的援助をおこなった、当時ヨーロッパ最大の金融資本家一族は何家とよばれるか。その名称を答えなさい。

設問6 下線部(e)について。帝国主義に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 国内で余った資本の投資先を海外に求めたことが帝国主義発生の一因である。

い. 帝国主義をめぐって、レーニンはトロツキーを肅清した。

う. 19世紀後半からおこった第2次産業革命は、帝国主義の前提条件をつくった。

設問7 下線部(f)について。1956年、この運河の国有化をめぐって戦争がおこったが、その際にこの地域に侵攻したのは、イギリス・フランスのほかにもどの国か。その名前を答えなさい。

設問8 下線部(g)について。この戦争において、南部諸州の結成した連邦の首都となった都市はどこか。その名前を答えなさい。

設問9 下線部(h)について。1869年、アメリカでは最初の大陸横断鉄道が完成したが、この建設には海外からの移民労働者が大量に投入された。そのうち、中国・インドを中心としたアジア系移民の労働者は何とよばれたか。その名称を答えなさい。

Ⅲ つぎの文章は、西ヨーロッパの文化史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

14世紀に始まるルネサンスが西ヨーロッパの文化史において新時代を開く出来事であったことについては、異論のないところであろう。

ルネサンスという言葉は「再生」という意味であり、特にこの時期には、ギリシア・ローマの古典文化が深く研究され、その再生が目指された。しかし、中世の西ヨーロッパでギリシア・ローマの古典文化が忘れ去られていたわけではない。西ローマ帝国の滅亡以来失われていた西ヨーロッパの統一を実現したカール大帝は、多数の学者や聖職者を宮廷に招き、ラテン語や学芸を奨励した。^(a) また、12世紀には、ビザンツ帝国やイスラーム圏からもたらされたギリシアの古典やアラビアの学術書がラテン語に大量に翻訳され、それに刺激されて学問や文芸が大いに発展した。^(b) ルネサンスには、これらの成果を引き継ぎ、さらに大きく開花させたという面もあるのである。

ルネサンス期の文化にはいくつかの特徴があり、それらは後の時代の文化に受け継がれたり影響を及ぼしたりした。ギリシア・ローマの古典文化に見出される調和や均整を理想とみなす態度は、そうしたものの1つであり、たとえば、17世紀のフランスを中心に展開され、悲劇作家ラシーヌによって完成された(1)主義文学においても、古代ギリシア・ローマが模範とされ、規則と調和が重んじられた。18世紀半ばから発展し、ハイドンやモーツァルトを代表的作曲家とする(2)派音楽も、交響曲を中心に形式美を重視するものであった。18世紀末から19世紀前半のダヴィドやアングルに代表される(3)主義絵画も、古代ギリシア・ローマを模範とし、格調の高さと均整を重んじた。

ルネサンス文化の特徴としては、キリスト教の権威の下にあった中世の文化との対比において、現世のありのままを重視するという点もあげられる。この特徴は、社会の風刺や批判へと結びつく面を持っており、18世紀に大きな潮流となった(4)思想は、それが大きく発展したのとも理解できる。この思想は、合理的な知を重んじて社会の偏見を打破すべきだと主張するものであり、『百科全書』の刊行に象徴されるように、特にフランスで有力だった。^(d)

19世紀に入ると、フランス革命後の混乱やナポレオン戦争を経てロマン主義の動^(e)_(f)

きが高まり、やがてそれが文学・芸術における大きな流れとなったものの、19世紀後半になると、人間の社会や現実をありのままに描こうとする動きがふたたび高まった。文学では、ロマン主義に対する反動として19世紀半ばにフランスで広まった^(h)（ 5 ）主義が、19世紀後半になると（ 6 ）主義へと継承されてヨーロッパ諸国に広まり、時代の変化を直視した社会性の高い作品を生み出した。美術でも、19世紀半ばに農民の日常生活を描く画家たちがあらわれた。マネやルノワールなど、外光による色の⁽ⁱ⁾変化を重視した（ 7 ）派の絵画も、こうした流れのなかから生まれた。

ルネサンス文化には、もう1つの特徴として、貴族主義的な面もあった。ルネサンス期の学者や芸術家は都市に住む教養人で、その多くは権力者の保護の下で活動した。^(j)そのため、ルネサンス文化においては、既存の政治・社会体制が批判されることはあっても、それらが根底から覆されることにはならなかった。

17～18世紀になると、この傾向はさらに進み、文化・芸術は特権階層、とりわけ君主の宮廷生活との結びつきを強めた。（ 8 ）様式のヴェルサイユ宮殿や（ 9 ）様式のサンソーシ宮殿のように、王宮そのものが当時の文化の象徴となつたし、画家たちも肖像画や宗教画で宮廷を飾った。バッハに代表される（ 10 ）音楽も、宮廷生活を通して発展したものである。

しかしそれと同時に、文化の担い手が、しだいに君主から貴族、そして市民層へと移りつつあったことも事実である。17～18世紀には、豊かな市民がその数を増し、^(k)文化の担い手としても次第に大きな影響力を持ち始め、その好みを反映した文化が出現していた。19世紀半ばまでには、それまで特権階層のものであったオペラ・バレエ・コンサートなどが都市の劇場で広く上演されるようになり、中間市民層も楽しむようになっていた。印刷の機械化や製紙法の進歩は書物や新聞の普及につながり、博物館や美術館も一種の社会教育の装置として各地で設置され始めた。すでに触れたロマン主義の動きなどは、こうした市民文化の潮流のなかにあったのである。

設問1 空欄（1～10）に入るもっとも適切な語を、枠内の語群から選びなさい。
なお、同一の語を複数回選んでもよい。

古代	中世	近代	現代	古典	前衛	
保守	革新	進歩	自由	実存	絶対	相対
写実	印象	幻想	象徴	耽美	抽象	具象
人文	社会	自然	人為	啓蒙	構造	神秘
実証	経験	観念	理想			
アール=デコ	ゴシック	バシリカ	バロック			
ロココ	ロマネスク					

設問2 下線部(a)について。カール大帝の宮廷を中心に展開されたラテン語と古典文化の復興運動は何とよばれているか。その名称を答えなさい。

設問3 下線部(b)について。このときラテン語に翻訳された書物のうち、スコラ学の発展に大きな影響を与えたのは誰の著作か。その名前を答えなさい。

設問4 下線部(c)について。ルネサンス期の文芸作品に関するつぎの記述（あ～う）は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. ボッカチオは『デカメロン』のなかで、ペスト流行下の世相を風刺した。

い. エラスムスは『愚神礼賛』のなかで、宗教改革に賛同して教会を批判した。

う. トマス=モアは『ユートピア』のなかで、イギリス社会を批判した。

設問5 下線部(d)について。『百科全書』の寄稿者に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. モンテスキューはイギリスの政治体制をたたえ、三権分立を主張した。
- い. ヴォルテールはフランスの後進性を批判し、平等と人民主権を主張した。
- う. テュルゴーは富の源泉を土地に求め、経済活動の自由放任を主張した。

設問6 下線部(e)について。この時期の出来事に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. クーデタで実権を掌握すると同時に皇帝に即位したナポレオンは、革命以来続いていたカトリック教会との対立を解消した。
- い. アウステルリッツの戦いでナポレオンが勝利したことにより、第3回対仏大同盟は崩壊した。
- う. ナポレオンに対するスペイン民衆の反乱をペラスケスが描いた。

設問7 下線部(f)について。ロマン主義の特徴は、何との対比で何を重視することにあつたか。以下の2つの語を必ず使用したうえで、40字以内で説明しなさい。なお、以下の語を使用した箇所には必ず下線を引くこと。

理性 民族

設問8 下線部(g)について。つぎのうち、ロマン派の作曲家として誤っているものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① シューベルト ② ショパン ③ スメタナ
- ④ ハンデル ⑤ ワーグナー (ヴァーグナー)

設問9 下線部(h)について。つぎのうち、19世紀の文学作品として誤っているものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① スタンダール『赤と黒』 ② ゾラ『居酒屋』
- ③ モーパッサン『女の一生』 ④ モリエール『人間ざらい』
- ⑤ イブセン『人形の家』

設問10 下線部(i)について。農民の日常生活を描いたこの時期の画家としてもっとも適切なものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ゴーガン ② セザンヌ ③ ドラクロワ
- ④ ミレー ⑤ ワトー

設問11 下線部(j)について。イタリア・ルネサンスの最大のパトロンの1人とされる人物で、サン=ピエトロ大聖堂の新築をすすめた教皇は誰か。その名前を答えなさい。

設問12 下線部(k)について。この時期における、都市の市民層にささえられて発展した文化に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. レンブラントは、市民自警団から注文を受け、『夜警』を描いた。

い. ミルトンは『天路歷程』で、貞節の重要性を説いた。

う. デフォーは『ガリヴァー旅行記』を著したが、ジャーナリストとしても活動した。





(